

栗駒山行報告

宮城労山主幹 2018年全国登山祭典 2018.6.16~17に参加

寺崎 眞理

【参加者】菅井 寺崎 他千葉県連3名 その他集会参加者 計80名

【16日の集会報告】

宮城、岩手の労山等約50名が参加。千葉県からは5名がホテル「ハイルザーム栗駒」に集結した。2日目の目的の登山もさることながら1日目の話はショッキングなものだった。

「岩手・宮城内陸地震」 ホテルの総支配人の体験談

10年の2008年6月14日8時43分、マグニチュード7.2のが「岩手・宮城内陸地震」が発生した。その日は夜の勤務を終え、朝自宅に帰ろうと山道を走っていると、ぐらっと振れを感じたら、目の前にとてつもない大きな岩が落ちてきた。危ない！と思ってバックしようとバックミラー見たら後ろに道がない。さすがの四駆も前にも後ろにも行けず、このままだと潰されると思い道路下が河川敷になっていたの、駆け下りた。何がどうなっているのか全く情報がないまま、救助されるまで一人で2時間半その場にいた。そのうち、自衛隊のヘリが何機もやってきて飛び回り、やっと見つけてもらい、ホーバリングするペリの中から隊員がロープを伝わって降りてきて自分を引き上げてくれた。自分が一番始めに救助された者かもしれない。

自分の生還は奇跡だった。周りもそう思ったに違いない。「生かされたんだから、何かしなさい。」ということなのだ。これからは、そのように生きていくと決心した。

ニュースで繰り返し放映され7人の犠牲者を出した「駒の湯温泉」は、再開願いの声が多く、日帰り温泉として出発していた。

その他

東日本大地震・大津波からの復興状況も報告された。

参加者の体験

17日当日石巻市から参加したその女性は「チリ津波」「岩手・宮城内陸地震」を体験し、「東日本大地震」では母親や多くの親戚・友人を亡くされたそう。「自分だけじゃない。みんなそうだ。」とおっしゃった。体調が思わしくなかったお母さんは暖房が全くない避難所で、寒さのために肺炎を起こされ亡くなられた。届き始めた避難物資はパンばかり。始めのうちはうれしいが、それがずっと続くとさすがに食傷。必要と思うものはなかなか手に入らず、避難所視察の議員たちは一部の順調に進んでいる所しか視察せず、いろんなものが足りなくて困っている多くの避難所には足を向けなかった。兎も角、避難先で一番嬉しかったのは、自衛隊のお風呂サービス。2週間ぶりだった。復興しているとは言うものの、内情は違う。

17日は慰霊も兼ねて地元の栗原市でも、大規模な避難訓練が行われた。

【17日栗駒山登山】

17日当日だけの参加者を含め総勢80余名が四つのコースに分かれて栗駒登山。ちば山が参加した裏掛コースを報告する

宿 8:00→裏掛登山口 8:30→10:45 崩壊地(1330m)→笹森分岐上 11:50→12:50 山頂 13:30
→中央コース→14:40 いわかがみ平 15:00→15:10 宿 16:00→千葉

辛い話の中でも、目的だった栗駒山登山では兎も角高山植物の豊富なことと言ったらない。あいにくの霧がたち込めた山行だったが、サラサドウダンのトンネル、足下にはマイズルソウ、チゴユリ、イワカガミ、イワイチョウ、ゴゼンタシバナ、ムシトリスミレ、コバイケイソウなどいろいろな植物が競って咲き誇るのを愛で、5つも6つも雪渓を越えてルンルン気分で歩いていると、稜線下のかなり長い距離が大きくえぐれ、赤茶けた地層が露出しており、もの凄く大きな岩がごろごろしていた。ここが総支配人を襲おうとした岩々が崩れ始めたところだった。周りの緑の中で異様な光景だった。

その後もいくつかの雪渓を越えて頂上を目指した



サラサドウダン



マイズルソウ



崩 壊 地



イワカガミ



ムシトリスミレ



ハクサンチドリ



末端が崖状の雪渓



ヒナザクラ



下山路の中央コースは、最短コースだが上部は階段、その下は丸石をコンクリで固めた固い歩きにくい道で閉口した。栗駒山は素晴らしい山だったが、その裏にいろいろな話が隠されており、これまでとは違った山になった。